

■ 第10回 多摩川流域セミナー

みんなで育てよう！多摩川流域リバーミュージアム

主催：多摩川流域懇談会

● 日時

・・・ 2001(平成13)年9月28日(日) 18:00～20:30

● 場所

・・・ 多摩市民会館 大会議室

TEL.044-935-3333 川崎市多摩区役所庁舎内

● 内容

・・・ 皆さんの参加と協力で作られました多摩川水系河川整備計画のなかで、「多摩川流域リバーミュージアム(TRM)」は新しい取り組みとして期待がもたれています。

今年度は思考期間として「TRMホームページのスタート」「ニヶ領せせらぎ館での情報サテライト」「市民活動の支援」などが7月24日から始まっています。

今後の多摩川での具体的な取り組みを話し合しましょう。

9月28日は17:30までリバーミュージアムを会館しています。TRMを実際に体験しながらセミナーに参加するのはいかがですか？

・・・ 開会

挨拶：井田 安弘(多摩川流域懇談会運営委員)

・・・ 話題提供「リバーミュージアム計画とは」

京浜工事事務所・多摩川市民フォーラムより

・・・ ディスカッション「今後の多摩川での取り組み」

コーディネーター：山道 省三(多摩川流域懇談会事務局)

・・・ 閉会

川口 丸雄(多摩川流域懇談会運営委員)

■ 第10回 多摩川流域セミナー 開催報告

みんなで育てよう！多摩川流域リバーミュージアム

主催：多摩川流域懇談会

平成13年9月28日（金）18時より、第10回多摩川流域セミナーを、川崎市多摩区役所内の多摩市民館で約60名の市民、行政関係者等にご参加者いただき開催しました。

今回のセミナーは、平成13年7月24日に試行運用が開始された多摩川流域リバーミュージアム(TRM)について、京浜工事事務所と市民側から話題提供を行い、これをもとに後半のディスカッションで「TRMに望むこと」と題して、これからのTRMについて活発な議論が行われました。

話題提供「リバーミュージアム計画とは」

● 京浜工事事務所 河川環境課 地域連携係長 石田

- ・ 多摩川流域リバーミュージアムの計画の概要とこれまでの取り組み、現状の課題とその対応方針の説明
- ・ 7月24日の運用開始式典の様子を収めたビデオ上映
- ・ NHKで取り上げられた特集の上映



● 多摩川市民フォーラム 井田委員

- ・ 国、市民、自治体、コーディネート機関などがきちんと等役割分担をして取り組んでいきたい。
- ・ 多摩川にはTRMを単純に体験する、支援して欲しい、実際に係わっていると、様々な人達を緩やかに連携していくには、どうしたらよいかを考えたい。
- ・ 市民の手作りでまちづくりを進めている「多摩川エコミュージアム」との関連も含め今後、市民フォーラムとして、どの様な提案が出来るか考えていきたい。

ディスカッション「TRMに望むこと」

ディスカッションでは、これからのTRMについて議論し、次のようなご意見をいただきました。

● 『TRMへの疑問』

- ・ 多摩川が持っている様々な問題点、これから克服しなければならない事を含めて、川とのふれあいを通じて認識することが必要。
- ・ リバーミュージアムという基本的なコンセプトが何なのか、楽しい事だと言われるけどそれだけで良いのかなと思う。
- ・ リバーミュージアムの主体がどこにあるのか。



● 『TRMへの感想』

- ・ 概念がわからない、多摩川全体を皆で分かって、多摩川をより私たちににとっていい川にしようということが大事なのでは。

- ・ 市民側の立場としては、川が好き、漁業関係者、川を楽しむ人、いい川にしたい、これからの環境を良くしたい、一面洪水などが出た場合は、川と戦わなければならない。行政側も戦ったり、環境を良くしたりするとは思いますが、市民側の視点でどう見るか、それをやるところがリバーミュージアムなのかなと思って参加しているが、なにをしていいかわからない。
 - ・ 市民側が問いかける事で、何をやりましょうとか、こういうことがありますからこういうふうにやりませんかとか、出来ればリバーミュージアムの中で合致するような形でやりたい。
 - ・ 今の多摩川を知ってもらうには、みんなに川の方を向いてもらわないといけない、という最初の発想、今回の活動は、多摩川を過大評価させようとするのでは無く、今の多摩川を知ってもらう、問題点をみんなで知ろう、そういうものがリバーミュージアムの大きな役割、様々な問題点は、流域懇談会の中で議論するわけですが、その時にどれだけ多摩川を理解しているかで、議論が深まる、そういった所に役立つ仕組みだと思っている。
 - ・ 自然保護、良い水にする等の理念を上げ20年30年やっても望ましい成果は上がっていない、特に意志の高い人達が一生懸命やっているだけではだめ、教育が必要、自然保護とか環境問題を何の為にするのかというと、子供達の為にということ絶対に視野に置くことが必要
 - ・ 未来の子供達の為に良い川を作ろうというのは、最高の目標、河川管理、治水、利水、それより優先してここで第一にやろうというのは、大変優れた行政の方々の見識だと思う。
 - ・ メニューはいろいろあるが、それを形にするのは難しい。実際にやってみると1つ1つが今までやった事がないこと。
- 『TRMへの改善意見』
- ・ 何か目に見える物を作りたい、市民が集まるのは、中心的なものがないと集まりづらい。市民で議論する場合、意見が出しづらいので、京浜工事事務所より資料を出していただければ助かるという意見が市民フォーラムより出た。
 - ・ 多摩川をこうして欲しいああして欲しいと出てますね。でもそれをリバーミュージアムでやるのはちょっと違うのではないかと、多摩川の情報を得る場、情報を得るシステムというふうに捉えている。多摩川の問題点は、市民フォーラムで取り下げ、その結果をリバーミュージアムの中に取り込んでいただけるのかどうかというふうに捉えていたんですけども、そういう形がリバーミュージアムに対する、これから市民フォーラムの関わり方にあるんじゃないかと思う。
 - ・ せせらぎ館には、リバーミュージアムを目的に来る人はほとんどいない、ふっと立ち寄ってなにがあるのかなってというのが現状で、ここに来て良かったなと思ってもらえる事が第一。
 - ・ リバーミュージアムと言うからには川そのもの全体が博物館というイメージですよ、河川管理の立場からすると、治水があって利水があって環境があって文化がある、という話になってくる、まず治水関係ではどんな問題があって、例えばこの前の大雨の時、警戒水位を超えたというニュースでありましたね、・(中略)・そういうものが全部まとまった形でリバーミュージアムに情報提供しようというようなこと、そこまで考えなければいけないと思うんですが、可能なんですか。
 - ・ リバーミュージアムは問題点を解決する為ではなくて、問題点を感じる前の疑問を学習する場。それをどう解決するかは、みんなで意見を出し合いながら考えていけばいい。

- ・非常に目くらましたと思う、ずっと煙幕張って、実際は多摩川にいろんな問題がたくさんあるわけで、問題点をきっちと出していくには各関係行政の連携がきちと出来ていない限り、やってはいけないわけですよ。そういう事を視野に入れて頂いているのか、それを聞きたい。
 - ・その問題点を現実的に考えていこうというのが多摩川水系河川整備計画そのものなんです、その整備計画を実現していく中に流域協議会とか流域懇談会とか市民フォーラムがあるわけです。そこが中心になってやっていきたいと考えます。
 - ・多摩川の現実がどうであるか情報知識を共有する場の一つとして、リバーミュージアムとか博物館とか図書館がある。
- 『TRMのITについて』
 - ・インターネットの情報は一方通行になりがち。
 - ・ホームページが皆さんにまだまだ浸透していないという反省もあるんですが、利用される方に工夫したホームページ作りをする努力はしていますが、今後も改良に努めていきたい。
 - ・多摩川に来る人に知ってもらう、参加してもらうPR活動が必要。
 - 『TRMの取り組み方について』
 - ・エコミュージアムは川崎市が地域の人たちと一緒にいいまちづくりを目指そうというものであり、リバーミュージアムは市民と自治体と一緒に地域づくり、流域づくりに取り組む。
 - ・我々はリバーミュージアムにしてもエコミュージアムにしても係わっているが、何をやろうとしているのか、何をやれば良いのか見えない。
 - ・やっている人が分からないというようなことをおっしゃっていますので、ましてや間接的に係わっている人たちには分からないと思います。分かるようにするには、中心になるところの流域のかみ合わせがはっきり分かるよう一つ一つやっていけばいい。一遍には無理だともう。
 - ・リバーミュージアムの運営も誰が責任を取って、どうしていくのか、明確な答えは今のところ見いだしていないのが本音。そういったところを試行運用を続けながら、皆さんにも議論に加わって頂いて、その中で答えを見つけ出せればと思っています。
 - ・多摩川を良くすることであったら、リバーミュージアムの中でとらえていいかなと、少し安心しました。今まで、川を生かすと言うことに対して国土交通省はリバーミュージアムとぜんぜん反対のことをやってきた、堤防を築き、水辺を無くしてきた、そういう様な川を良くする為に、何かやろうとした時に認められて、お互いに協力しながらやっていけるのかなと理解したいのですが。
 - ・我々は地先の所でやっていますが、京浜工事事務所とつきあっている関係ではなくて、地先の自治体とお付き合いしていますので、調整をうまくやって欲しい。
 - ・未来の子供達や学校に地域を通して多摩川を知ってもらい、未来の多摩川を守ってくれる様にして欲しい、親として、市民としてやっていきたい。川崎市であろうと京浜工事事務所であろうと、そのようにやって下さるのであれば喜んでパートナーシップで協力してやっていきたい。

等活発な議論が交わされました。

今後、試行期間を行いながら、多くの議論を重ねリバーミュージアムの方向性を見だし、いただいたご意見や議論を踏まえ充実させていきたいと思っています。